

編集後記

この度、黒田チカ博士の資料目録をまとめることができた。そもそも筆者がこの仕事に携わるようになったのは、1986年にお茶の水女子大学女性文化資料館（現在 ジェンダー研究センター）の、女性科学者に関する研究の一環として、黒田博士について書くように依頼され、執筆したことに始まる（Ku-4001）。これを書いた当時、黒田博士の遺した資料がどの様に保存されているのかを筆者はよく知らなかったのであるが、黒田博士の研究上の直弟子であった岡嶋正枝博士がまとめた黒田博士の学術論文と随筆の別刷やコピー等が資料館に保管されてあったので、これ等を参考にすることができた。

黒田博士の逝去後、本学では幾つかの関連する催事が行われ、その度毎に関係者の努力によって次第に資料が集められた。特に養子黒田吉男氏が受け継いで所蔵している古い資料を、佐賀大学の堀勇治氏からコピーの形でいただいた。駒込にあった黒田博士の東京の自宅は、第二次世界大戦の際に戦火を受けた。英国留学の折に買った書籍や、帰路に立ち寄った米国で購入したレコード類、またその頃の写真など貴重な品々が全て焼失したとの黒田吉男氏の談であり、大変残念である。そのため黒田博士の資料の数はそれ程多くないが、一世紀以上も前の幼い日、若い日の写真が生き生きと甦っている。

黒田博士は大正5年に東北帝大を卒業して、日本最初の女性理学士となった。これがその後の生涯に非常に大きな力となっているように思う。この東北帝大入学は日本の帝国大学の女子への門戸開放ではあったが、その後次々と女子帝大生が化学の分野に生まれたわけではない。この理由ははっきりせず、黒田博士の資質が大変優れていたことは勿論であるが、別の角度から考えると、周囲の関係者の、女性を育てようとする努力と情熱が如何に大切であることを教えているようにも思う。また生まれた時期、その人に授かるとても言うしかない運ということも感ずるのである。

この資料目録が科学史に興味を持つ人のみならず、時代を越えて、これから科学の分野に生きようとする女性に、自らの目標に向かって労を惜しまず、地道に努力することが大切であることを考えるきっかけとなるならば幸いである。人のやっていないこと、自らがその道の先頭に立てるような、小さくてもよいから新しい分野、仕事に立ち向かうことは、どんなに苦勞が多くてもそこに大きな喜びのあることを経験していただきたい。

「私は人まねをすることが大嫌い」との黒田博士の言葉が何よりのメッセージであろう。

最後にこの目録作成にいろいろな形で協力して下さった大勢の方々に、心からの感謝の気持ちを表したいと思う。

（前田 侯子 記）